

質問

5年前に胃がんの手術を受けた75歳の母親が、2年前に肺や肝臓に転移が見つかり、がんの進行を抑えることを目標に抗がん剤治療を続けてきましたが、1週間前から食事ができなくなり、自分でもいにも行けなくなりました。担当医から「抗がん剤治療をこれ以上続けても治療自体がかえって母親の状態を悪くする。緩和ケア中心の治療を考えた方がよいのではないか」と説明がありました。悩みましたが、母親の「家で家族と過ごしたい」という願いを大切にしようと思います。母親や家族が安心して在宅で過ごすには、具体的にどのようなことにはげばよいのでしょうか。

(47歳女性)



答え

「もう治らない」ことを受け入れるのは、とてもつらかったと思います。がんの治療が難しくなっても、それは何もできないというところではありません。痛みや吐き気、食欲不振、だるさ、気分の落ち込み、孤独感を入



武知 浩和

徳島大学病院食道・乳腺
甲状腺外科医師

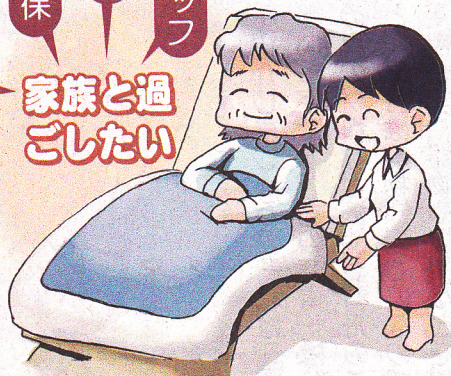
在宅療養どうすれば

軽くすること、自分らしさを保つこと、生活スタイルを確保すること...無理のない範囲で、これからの治療と療養生活について考えていきましょう。
私は外科診療に当たりつつ、「がん緩和・こころのケア部門」の業務にも携わっており、具体的には、鎮痛など身体症状の緩和や、精神腫瘍の専門スタッフと連携して精神症状の緩和に努めています。
お母さまの在宅療養に向けて心配されるお気持ちは非常によく分かります。私たちは、進行がん患者の在宅療養の支援にも力を入れていますが、皆さん、同様の不安を抱えておられるようです。
相談を受けた際には、地域医療連携センターのスタッフ(看護師、医療ソーシャルワーカー)と連携して、次のような方

支援医師や入院先確保

- 支援スタッフ
- 症状緩和
- 入院先確保
- 医療サービス確認

家族と過ごしたい



在宅療養はこまやかな気遣いで

法を進めています。①在宅療養を支援してくれる医師、訪問看護スタッフを探して依頼する②当院でできる限り症状を緩和しておく③在宅療養の継続が困難な状況になった場合に備えて入院先を確保しておく④受けられる医療サービスの提示を行う...
このうち③は、病状や家族の疲労具合などにより、一時的ではあっても入院の必要性が発生する場合は想定される上、特に、無床診療所の医師に支援をお願いした際には、入院できる段階であることも認めます。
病床を確保しておくことが、患者サイド、医療従事者サイドとも安心感につながると考えています。
徳島県では、がん患者の在宅療養について、まだまだ理解が深まっていないのが現状です。正直、私たちも試行錯誤している段階であることも認めます。
よく「住み慣れた自宅で過ごすのが良い」という意見を耳にしますが、私は、これが理想の押し付けになることは避けたいと考えています。

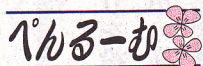
質問募集 がんに関する悩み「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8572 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センターへ電088(033)94386でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。

考慮し、できる限りニーズにお応えする努力をしております。まずは担当の医師に相談するところから始めてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、がん治療を受ける際には、地域のかかりつけ医で日常的な診療を受け、がん診療連携拠点病院では専門的な治療を受けるといふ、いわゆる「主治医2人制」が、今以上に県民の皆さまに浸透することが理想的で、できる限り自宅で生活するためにも重要なことであると考えております。

なお、徳島市医師会では「在宅緩和ケアネットワーク」を設立し、かかりつけ医がいなくてお困りのがん患者や家族に対し、在宅療養支援診療所を紹介するなどの在宅緩和医療に対応していただいておりますので、ぜひ相談してみてください。

徳島がん対策センター http://www.toku-gantaisaku.jp/



☆☆ 50歳のチャンネル19番 ☆☆

あれが同じヤネルた。その時... 50歳に... 19番が... キーと... 自分へ... った。... 月日... そんな... ろん、... ていた... おめで... のが、... ?... にな... 最高に... 今... れど、... たこの... う。

